

策定プロセス訪問調査事例

岐阜県可見市

母子保健計画策定プロセスに関する調査票

市町村名（ 可児市 ）

記載担当者名（ ）

	市 町 村		保健所の関与
	市町村行政内部の作業	住民参加	
<p>【Ⅰ】事例の概要 ◆事例検討に当たって理解しておくべき背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口、地理的条件、社会資源等 ・市町村の組織体制等 ・住民組織の成熟度等 ・県の取り組みと保健所の特徴 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口：88,169人(H7)、出生率：9.9%(H6)、老年人口割合：10.34(H7) ・医療状況：総合病院（有り）、産科（有り）、小児科（有り）NICU（無し）多治見市や春日井市へ、30～40分 ・社会資源：現在老人福祉関係の施設などの充実中。母子関係では市内に養護訓練センター有り。 ・名古屋市のベッドタウンで昼間の人口は少ない。新興住宅地で若い世代が多く、意識的には近隣の市町村に比べ都市化してきている。（権利意識は強く、地縁血縁は薄い） ・新旧住民が混在しており、住民活動は活発ではない。（リーダーになれそうな人はいるが、活動自体がイベント的なものが多い） ・保健センター職員：所長、保健指導係（係長、事務職1人、保健婦9人、栄養士2人、歯科衛生士1人）、保健衛生係（係長、事務職2人、看護婦2人） ・以前から母子保健に関する事業は、低出生体重児訪問の一部や申請事務等を除き、殆ど市が主体で行ってきていた。（保健所はこのサポートをしてきた） 		<p>所管保健所：可茂保健所 ・管内人口：217,612人(H7)</p> <p>・市町村数：11市町村（2市8町2村）</p> <p>・保健所保健婦と市町村担当者との定例の研修会を開催していた。（年10回）</p> <p>・その他は乳幼児健診や会議などでの関わり程度</p>
<p>【Ⅱ】計画策定の準備 ◆計画策定の目的、策定の手法等の合意形成</p> <p>①合意形成のキーマン</p> <p>②範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首長、財政、他課、議会、住民組織、医師会等 <p>③合意形成の手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別調整、会議、研修・勉強会等 <p>④策定体制の有無、構成、運営</p>	<p>◎5月上旬の保健所からの説明会から、8月末の提出締め切りまでの4ヶ月で計画を策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番上の保健婦が中心になり、栄養士、歯科衛生士を含む母子保健担当者で打ち合わせをしながら母子保健連絡協議会の準備をした。 ・他の関係機関との協力体制の必要性を感じたが、時間的余裕がなかったため、素案を作るための情報をもらう関わりが主。 ・保育園、養護訓練センター、児童センター、教育研究所、教育委員会、福祉事務所、環境課、都市計画課等に、分担して担当者個別で日程調整。（特にセンター所長等を介してはいない） <p>◎他機関との協力体制の必要性を感じた理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子保健計画は保健センターだけで考えるのではなく、街づくりの一環として考えるべき。 ・情報だけでも、現状を把握し、保健センターの担うべき役割を考えたかった。（できれば民間サービスも把握したかった。） <p>*計画を作る事になったとき、地域づくり型保健活動の本や、保健計画策定の本、エンゼルプランなどを読んだ。</p> <p>*H7年から可茂管内市町村保健婦と名城大学の平野教授を中心に地域保健研究会（老人保健が主）を開催してきた。ここで地域（関係機関）の中で保健センターの位置・役割を考えると、保健婦だけで全てを担うのではないということがわかった。</p> <p><地域保健研究会が始まったきっかけ></p> <p>大学所在地が可児市であったことと、保健所が主催の研修会（市町村サービス調整会議の活性化について）等で講師に招いたことをきっかけに、地域福祉のキーパーソンは岐阜県では社協より保健婦ではないかということ、平野教授から「学習の場ではなく研究の場としての会」の開催の提案がされた。</p> <p>◎問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他機関には母子保健計画策定についての情報が全く入っていなかったため、一から説明しなければならなかったことや、協力が得にくかった。 		<p>H8年5月保健所担当者が市町村へ「計画策定指針」の説明。</p> <p>*具体的に取り組みを開始している市町村の報告と具体的な進め方のイメージづくり)</p> <p>・管内保健関係課長へ計画策定の説明をし、課長レベルへの理解を求めた。</p>
<p>◆その他、計画策定のための環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算 ・人的体制 ・時間の確保 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・予算は無し。印刷代のみ補正予算。 ・人的体制は特になし。通常業務に計画策定のための作業時間が加わった。 ・時間の確保：全て時間外対応 		

<p>【Ⅲ】地域の実態、住民ニーズの把握</p> <p>①地域の実態、住民ニーズ把握の視点の整理と共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーマン、範囲、手法、検討体制（【Ⅱ】と同様） <p>②具体の手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存資料の活用 ・住民等との対話 ・アンケート調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な傾向は、H8年2月に県が行った子育て意識調査の結果と大きくは変わらないと考え、これを基に健診や育児への父親参加に絞って調査。（各事業への参加者を対象） ＊健診の受診率が90%を常に上回っていることから、可見市では健診という機会が重要だと考え、これを柱にプランを考えようとした。 <p>◎調査を行った理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「多分そうだろう」では、主体である住民のニーズにあったプランは立てられない。 ・時間的余裕がないため、日常業務の中で保健婦が捉えたニーズの確認として調査した。 	<p>◎調査でわかったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診は子供の健康の確認のために来ており、他の母親との交流はしたいが、そのための時間をここでとることは望んでいない。 ＊児童館の紹介 ＊健診・相談時に子供の遊び場として一部屋解放する事に。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画の指標となる資料をまとめて提供。 ＊数字の問い合わせに対し、随時対応。
<p>【Ⅳ】計画（施策）化</p> <p>①具体の対応方策に関する検討協議と関係者の合意形成</p> <p>②内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体の目標、数値目標、評価指標 	<ul style="list-style-type: none"> ・素案は保健センターで作成し、実務者会議で検討したものを協議会にかけた。 ・市の計画とするため、総合計画との整合性を持たせ、議会を通した。 ・実務者会議は情報を提供してもらう際に有る程度理解してもらっていたので、会議への参加依頼はスムーズだった。 <p>◎問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会だけでなく実務者会議でもあまり意見が出なかった。 ＊自分の所の行っていることに関しては意見が出ても、他機関のことまでを含めた広い視野での意見が出るところまでいかなかった。 ＊今までこのような会議がなかったが、今回をきっかけに課題別にでも関係機関が集まる形での継続をしていく予定 ・評価については数値目標等は明記できなかったが、事業ごとに評価する為の用紙を作成した。 ＊日頃から評価するということが日常業務の中で曖昧にされている不安感があったことと、事前学習で計画の評価の大切さを知っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健推進員全員に素案を渡し、意見をもらった。 <p>◎理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでない直接的な住民の声を計画にどう入れるかがポイントだと思っていた。 ・時間的余裕がない中でこれが少しでもできる様に、保健センターと母親とのパイ役となっている保健推進員に聞こうと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導課長が協議会に委員として参加。 ・市町村担当者を対象に計画策定の進捗状況についての検討会を開催した。
<p>【Ⅴ】計画の具体化</p> <p>・9年度予算への反映</p> <p>・計画の進行管理組織体制</p> <p>・住民、関係機関への周知等</p>	<p>◎予算への反映</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H9年度よりプリパパ・ママ教室を開催。その他事業の見直し。 ・H10年度より離乳食教室開催予定（計画外で栄養士より提案された） <p>◎進行管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回協議会の開催。（教育委員会など既存の会にない機関が入っていることを生かして、市全体で母子を考える体制を作りたい。） <p>◎計画の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイジェスト版を作成し、市庁舎内への周知や、市長、民生部長等へ説明。 ・市民へは今までとほとんど変わらないため、周知せず。 		<ul style="list-style-type: none"> ・市町村担当者を対象に計画の進行状況と課題についての検討を行った。
<p>【Ⅵ】全体を通じた事例のまとめ（キーワードも記入）</p>	<p><事例の特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・4ヶ月という短い期間で策定する中で、保健婦が良いと思うことをできるだけ取り入れようとしている。 ＊責任者会議だけでなく実務者会議の設置と計画策定後もこの会を継続させようとしている。 ＊健診の場を利用したアンケートの実施（住民ニーズの把握として）。 ＊最終段階ではあったが、住民代表として保健推進員に計画を提示して意見をもらっている。 ＊具体的な数値を用いた指標化まではいかなかったが、計画を評価しようとしている。 <p><感想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンゼルプランがはっきり出されない中で、母子保健分野のみで動くのは動きにくかった。 ・保健所に他の保健所の動きを知りたいといったが、何の返事もこなかった。 ・新しいものを打ち出すまではできなかったが、今までの活動（事業）を見直し整理する機会となった。 ・可見市全体の中での母子保健を考えると今まではできなかった。 ・センター内の多職種（栄養士など）が自分の思いを話し合う基盤ができた。（栄養士や歯科衛生士から企画が出されるようになった。） ・これをきっかけに、簡単でもいいので老人保健の計画も立てようと思った。（目標を持って保健活動をする重要性がよくわかった。） <p><要望></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国・県・保健所それぞれのレベルで関係機関が立てている計画などと整合性がもてるような連携がされていると、協力体制が作りやすい。（末端の実務者同士で声を掛け合う事には限界が有り、県から各機関へ文書一枚でもあったらいい。） ＊保健所へ：他の市町村の情報の提供や選択肢を広げられるようなアドバイスがほしい ＊ただ数字や情報をそのまま提供するのではなく、その特徴等を分析しどう利用すると良いかを考えたアドバイス。 ＊保健所がある程度の基準を持った上で分析し、解決の糸口となる選択肢を提 		

示してほしい。

*表面に見えているところではなく、構造的に問題をみたアドバイス。

*大きい単位（時間等）でみていくとき（例えば母子保健計画の目的等）の分析についてのアドバイス。

<時間的余裕があった場合>

- ・住民のニーズをアンケートだけでなく直接的な声として聞く事がしなかった。
- ・関係機関との連携をもう少し深めた中で計画策定がしなかった。